

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

42号
2021
2.26

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



「第16回 早春の草花展」

～春を感じる風の中で～



2月13日(土)～3月14日(日) 10:00～16:00

大芝生地 特設会場にて・・・

～寒さの残るこの季節・・・

一足早く「春の景色」をお届けします！～

第16回 早春の園芸市

○期間：2月26日(金)～2月28日(日)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：雪割草、サボテン類など話題の植物を集めた園芸市

第29回 春蘭展

○期間：3月12日(金)～3月14日(日)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：シュラン約100点及び席飾り5席を展示(販売あり)

第34回 早春の山野草展

○期間：3月19日(金)～3月22日(月)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：早春に咲く山野草約250点を展示

◆3/21(日)山野草展関連 講習会

植物園会館前集合 13:30～14:15

「植物園職員による植物生態園ガイド」

講師：植物園職員

第60回 つばき展

○期間：3月26日(金)～3月28日(日)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：京都の名椿などツバキの切り枝を展示

◆3/27(土)園内つばき探訪

植物園会館前集合 13:00～13:45

「園内の椿案内」

案内：植物園職員

◆3/28(日)つばき展関連 講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00

(当日受付 13:00～)

「植物とあぶらの深くておいしい関係(仮題)」

講師：浅原貴美子氏(株式会社山中油店)

第29回 球根ベゴニア展

○期間：3月27日(土)～4月11日(日)

○場所：観覧温室(ジャングル室)

○内容：球根ベゴニア約300鉢を展示

◆4/4(日)球根ベゴニア展関連 講習会

観覧温室(特別展示室) 13:30～

「球根ベゴニアの園内における栽培の仕方」

講師：植物園職員

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート！



「植物園ガイド」が植物案内！

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！～

① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象

② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)

③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定！

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成！「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察！

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP！



今週の「探して！」

2021. 2. 26
42号

⑫ ペアルケア・ヒポキルティフロラ

イワタバコ科。エクアドル原産。葉は緑褐色で銀白色から赤色の葉脈がよく目立つ。花は葉腋から伸びる花茎の先端に1個つき、蕾は赤い電球のように下を向く。次第に膨らみオレンジ色の風船のようになる。多湿な環境を好む。

⑪ アセビ

ツツジ科。本州、四国、九州の山地に自生。葉や茎には、有毒成分が含まれているため、馬が食べると毒にあたって酔ったようにふらふらとした足取りになることから、漢名で「馬酔木」と書かれるようになったとされる。

⑩ セナリバナナ

バショウ科。ジャワ島やマレー半島で栽培。和名は果実が1,000個もなるということに由来。果実は食用には適さず、自生地でも家畜の飼料用にわずかながら栽培されているだけで、主として観賞用に植物園などで栽培展示されている。

⑨ ビオラ

スミレ科。ヨーロッパに自生する野生種から育種され、かつては大輪のものをパンジー、小輪で株立ちになるものをビオラと呼んで区別していた。しかし、現在は複雑に交雑された園芸品種が登場し、区別しにくくなっている。

① シナマンサク

マンサク科。中国が原産。日本に自生するマンサクは、春にいち早く開花し、「先ず咲く」花木としてその名が付いたといわれている。シナマンサクはマンサクよりもさらにひと月近く早い厳冬期に、同じ仲間の中で最も大きな花を付ける。

② ヘレボルス・オリエンタリス

キンポウゲ科。ギリシャやトルコなどに分布。日本では本種を含む全てのヘレボルス属を総称して「クリスマスローズ」と呼んでおり、その名称で知られている。欧米では冬に咲く「ヘレボルス・ニゲル」のみを「クリスマスローズ」と呼んでいる。

③ フクジュソウ

キンポウゲ科。北海道から九州などに分布。黄色のおわん状の花は春先の少ない日の光を中央部に集めて花の中を暖めることで、媒介するハナアブ類を誘い活動を活発にする役割があるともいわれる。スプリング・エフェメラルの一つ。

④ 聖護院ダイコン

アブラナ科。約180年前に、聖護院の農家が尾張の代表的な品種である細長い形の「宮重大根」をもとに播種を繰り返して丸形のものを選抜した。非常に品質が良かったため周辺地域に広まり、「聖護院大根」と呼ばれるようになった。

⑤ シクラメン・コウム

サクラソウ科。トルコの地中海沿岸などに分布。葉はハート形で小さく丸い。葉に入る銀白色の斑も多様で花とのコントラストも楽しめる春咲きの原種シクラメン。本種は耐暑性・耐寒性に優れ、丈夫で栽培しやすい。

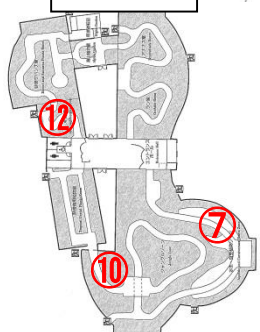
⑥ ウメ

バラ科。中国原産。日本への渡来は西暦700年頃といわれ、実を取るためや花を觀賞するために古くから栽培されてきた。万葉集では梅を詠んだ歌が119首あり、桜の40余首を上回る。奈良時代には春の花見はウメを觀賞していた。



写真はコチラ！

観覧温室



⑧ プリムラ・マラコイデス

サクラソウ科。中国雲南省などに分布。冬から早春に開花し春のおとずれを告げる植物とされることから、中国名では「報春花」と呼ばれている。また、茎やがく片、葉の裏などに白い粉がついていることから「化粧桜」の別名もある。

⑦ ポーモンティア・ムルティフロラ

キョウチクトウ科。インドなどヒマラヤに分布。常緑つる性の樹木。花をよく見ると五本の雄しべの先端が合わさり半開きの傘状をしており、それに雌しべの先端が包み込まれるユニークな構造をしている。夜に強く香り、媒介する蛾などを誘う。

